

2025 年— 日本藻類学会事務局役員の新任の挨拶



会長
河地 正伸

国立環境研究所生物多様性領域

研究対象生物：藻類，無色プロティスト

研究分野：分類，生態，保全・保存
好きな藻類：強いてあげるならやはりハプト藻です

日本藻類学会は，私が卒業研究の年に入会して以来，長年お世話になっている学会です。この度，2025 年 1 月より本学会の会長を務めさせていただくことになりました。事務局役員の皆様には，学会運営や事務に多大なご協力をいただくことになりますが，快く役員就任をお引き受けいただき，心より感謝しています。私自身は力不足な面が多々ありますが，役員の皆様をはじめ，編集長，編集委員，評議員そして会員の皆様のお力添えをいただきながら，責務を全うする所存です。これから 2 年間，どうぞよろしくお願いいたします。前会長の小亀先生からは，いくつかの重要な課題を引き継いでおります。喫緊の課題として，英文誌 *Phycological Research* のオンラインジャーナルへの移行に向けた調整があります。次回の契約更新を見据えて，沖縄大会の総会で結論を出す必要があると考えています。会員の皆様のご理解をいただきながら，学会としてより良い方向へと進めてまいります。

国立環境研究所の微生物系統保存施設では，長年にわたり藻類保存株の収集，保存，提供に関する事業に携わってきました。昨年度末に定年退職しましたが，今後数年間は引き続き在籍して，事業やプロジェクトに携わる予定です。この職場では，藻類の多様性や研究リソースとしての魅力を日々実感するとともに，様々な分野の研究者が藻類に関心をもつようになり，利用が年々拡大していることを肌で感じていました。この事業の一環として，文部科学省のプロジェクト，NBRP（ナショナルバイオリソース）に神戸大学の上井先生，北海道大学の小亀先生と共に参画していますが，NBRP の数あるバイオリソースの中でも，藻類は注目されるリソースの 1 つで，他のリソース担当者から羨ましがられることも少なくありません。NBRP は動物，植物，微生物の 3 グループにリソースを分けていますが，藻類はこれら全てに関わることができるリソースです。他のリソース担当者との広範な交流に加えて，自然の妙ともいえる微細構造や色調の多様さ・美しさ，様々な環境に適応・生息できる生理・生態的多様性の高さ，それらの背景にある進化系統的多様性，そして地球史で果たしてきた重要な役割や SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するポテンシャルといった藻類の特性，特徴をアピールしてきた結果，藻類が魅力的なリソースと認識されているのだらうと思います。

日本藻類学会は，1952 年 11 月に創立され，72 年の歴史を誇る世界的にも古い歴史をもつ「藻類」の学会です（*Phycological Society of America*: 1946 年，*British Phycological Society*: 1952 年）。長い歴史の中で，基礎から応用研究に至るまで，多岐にわたる研究分野で大きな貢献を果たしてきました。多様な藻類が研究対象となる中で，新しい分類群の提案や細胞・オルガネラ・共生，そして進化，大系統に関わる研究など，数々の独自性の高い研究成果も発表されてきましたし，ウイルス，バクテリア，非光合成真核微生物なども研究対象とされてきました。国内外で藻類に対する関心が高まり，様々な研究分野で藻類が研究対象として注目されているのですが，残念ながら，近年，本学会において，会員数の減少が続いています。会員数減少の背景には，本学会の魅力を外部に十分に伝えきれていないという可能性があります。本学会で長年蓄積されてきた藻類に関する様々な情報，そして本学会だけでなく他学会でも活躍されている人材を活かして，多様な視点から藻類研究の意義や藻類のもつ可能性を広く発信する努力が求められているのではないのでしょうか。新規会員の獲得や若手研究者へのアプローチを強化して，様々な分野，世代にとって魅力的な学会活動を展開できれば，会員数を回復できるかもしれないと考えています。

前会長の小亀先生と私はほぼ同世代ですが，今後，本学会では世代交代が加速していくことでしょう。私のようなリタイア間際の会員が会長になるのではなく，思い切った若返りを図ることも学会の活性化に直結するかもしれません。本学会の世代交代に関わる事案として，若手研究者の育成とリタイアされたシニアの研究者の知識・経験の活用，この 2 つを両軸として進めることが，学会の持続的な発展にとって重要ではないかと考えています。若手育成に関しては，第 45 回東京大会から実施されている「学生発表賞」や，第 43 回京都大会から始まった「高校生ポスター発表」が軌道に乗りつつあり，藻類研究の未来を担う，次世代の研究者を発掘，育成する貴重な機会，場となっています（開始年が間違っていたらごめんなさい）。一方で，リタイアされ，研究の第一線を退かれた会員の方々に，その豊富な経験や知識を活かしていただける機会，場についてはあまり考慮されていない印象をもっています。リタイアされた会員を対象として，「シニア会員」的な新たな会員資格の導入を複数の会員からご提案いただいております（これも引継ぎ事項の 1 つ），これにプラスして，シニアの会員が学会を楽しむだけでなく，学会のさらなる発展に貢献していただけるような仕組み作りについて検討してはどうかと考えています。

このたび会長に就任するにあたり，年末年始に，日本藻類学会について思いを巡らせる中で，この学会が私にとって特別な存在であることを実感しています。本学会は，「藻類」という共通のテーマを持つ仲間が集まり，会員同士が交流し，

多くの知識や経験を共有できる貴重な場です。現在、本学会は藻類に関する総合的な学会としての役割を強化する時期に來ていると感じています。研究成果を発表するだけでなく、シンポジウムや啓蒙・教育活動、ワークショップ、講習会、採集会などの様々な活動、いわゆる藻類を学ぶ機会の重要性がますます高まっています。藻類への関心、社会的なニーズの高まりを強く意識して、学会として、藻類の基本的知識から最新の研究成果に至る「藻類を学ぶ場」を定期的かつ計画的に提供し、学会内外に藻類に関する知識、技術を幅広く普及するような活動をこれまで以上に展開することが必要だと考えています。第一線で活躍している研究者にとって、優秀な学生と巡り会えたり、共同研究や研究の幅を広げたりする機会となるかもしれません。また大学で講義、実習に長年

対応されてきたシニアの会員の活躍の場となることも期待できます。こうした「藻類を学ぶ場」を長続きさせるには、また新規会員の獲得に繋げるには、企画者・講演者と受講者・非学会員の双方にとって Win-Win の関係を作れるかが鍵でしょうか。

2年間の任期中にできることに限りがありますが、これまで学会を支え、築いてこられた先輩方の財産を引き継いで次の会長に繋げていくこと、そして学会の活性化に少しでも貢献できれば、これ以上の喜びはありません。とりとめもない挨拶文をお読みいただきありがとうございます。「これこそは」というアイディアをおもちの方、ご協力いただける方、またはご批判・ご意見などがありましたら、是非、私や事務局役員までご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。



庶務幹事

田辺 雄彦

国立環境研究所生物多様性領域

研究対象生物種：ブルーム形成藻類

研究分野：藻類ブルーム、藻類と細菌の相互作用

好きな藻類：窒素固定ラン藻

本年より庶務幹事を担当させていただきます。河地会長をサポートして藻類学会のために働きます。若い世代の会員が増えるような運営を心掛けたいと思っています。



庶務幹事 (サブ 1)

吉田 昌樹

武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科

研究対象生物種：微細藻類全般

研究分野：藻類バイオマス

好きな藻類：Reticulofenestra sessilis 何？という配置と塊感がよいです。

民間勤務ですが、4月からこちらの所属になっている予定です。着任直後のドタバタが落ち着き次第、庶務幹事のサポートに入っていければと思います。これまでは北関東をウロウロしていましたが、人生初の西日本勤務となりまして、近くの方は仲良くしていただけると幸いです。



庶務幹事 (サブ 2)

峯 一郎

高知大学理工学部生物科学科

研究対象生物種：巨大細胞性藻類

研究分野：細胞壁の構造と機能

好きな藻類：ありません。

定年退職までの年月を指折り数えて過ごしていたら、有難いことに藻類学会にご恩返しする機会を河地新会長から頂きました。とはいえ、このところ学会にはすっかりご無沙汰していて、お役に立てるかどうかな？？？ですが…。2年間よろしくお願ひ申し上げます。



庶務幹事 (国内会員事務担当)

出村 幹英

佐賀大学海洋エネルギー研究所およびリジョナル・イノベーションセンター「さが藻類産業共同研究講座」

研究対象生物種：微細藻類全般

研究分野：分類学、生物地理学、生物資源科学

好きな藻類：イカダモ

庶務幹事 (国内会員担当) を担当させていただくことになりました。非常に多岐にわたる、さらに、膨大な仕事量に立ち尽くしております…。なるべくご迷惑をおかけしないよう、一つ一つ頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



庶務幹事（外国会員事務担当）

植木 紀子

法政大学自然科学センター

研究対象生物種：緑藻ボルボックス目

研究分野：細胞生理学

好きな藻類：ボルボックス

この度、庶務幹事（外国会員事務担当）を務めさせていただくことになりました。外国会員の皆様の入退会等のお手続き、海外からのお問い合わせ対応、英文誌への投稿論文の超過ページ代の請求などを担当します。以前ドイツやアメリカで生活した経験も、何かの役に立てばと思っております。国内外の皆様とスムーズにやり取りできるよう努め、学会全体の活性化にも貢献できるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



庶務幹事（広報担当）

大沼 亮

神戸大学内海域環境教育研究センター

研究対象生物種：Nusuttodinium 属渦鞭毛藻類、クリプト藻類

研究分野：分類学、細胞生物学

好きな藻類：クリプト藻（藻類の世界に足を踏み入れるきっかけになった生物です）

広報担当として学会 HP の管理を担当させていただきます。庶務幹事を拝命するのは初めてなので、ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。HP への掲載事項をお持ちの際はご一報ください。速やかに HP を更新するよう努める所存です。



会計幹事

松崎 令

大阪工業大学工学部

研究対象生物種：冰雪藻類

研究分野：系統分類学

好きな藻類：クライノモナス (*Chlainomonas*)
がお気に入りです。

会計幹事を拝命しました。学会の事務局役員として本格的にはたらくのは、今回が初めてとなります。他の役員の皆様のご迷惑にならないよう頑張ります。